

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-149	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol control efforts in comprehensive cancer control plans and alcohol use among adults in the USA. アメリカ合衆国の成人における包括的がん対策計画とアルコール摂取に対する取組み		
執筆者		
Henley SJ, Kanny D, Roland KB, Grossman M, Peaker B, Liu Y, Gapstur SM, White MC, Plescia M.		
掲載誌		
Alcohol and Alcoholism. 2014 Nov;49(6):661-7. doi: 10.1093/alcalc/agu064		
キーワード		PMID
※文献に記載なし		25313255
要 旨		
目的： 本研究の目的は、アメリカ合衆国において、包括的がん対策計画がアルコール摂取をいかに扱っているかを理解することと、何人がリスク集団に含まれるかを示すことである。		
方法： アメリカ合衆国における 69 の包括的がん対策計画におけるアルコール摂取への取組みについてレビューを行なった。また、2011 年の Behavioral Risk Factor Surveillance System (BRFSS) のデータセットを使用して、アメリカ合衆国の成人における現在のアルコール摂取量とガイドライン記載の適量以上に飲酒している人数の調査を行った。アルコール摂取量は 2010 年米国食生活ガイドラインに沿って分類した。		
結果： ほとんどの州の包括的がん対策計画において、アルコール摂取ががん発症のリスク因子であることが述べられていたが、アルコール摂取の目標値を定めている州は半分以下であった。また、半分以上の成人が 2011 年現在におけるアルコール摂取を報告し、3 人に 2 人は過去 1 月の間にガイドラインに定められたアルコール摂取量を超えた飲酒量を報告した。アルコール摂取をがん対策計画に含めていない州では、アルコール摂取に関するリスク因子を保有している成人の割合が高かった。		
結論： アルコール摂取はがん発生のリスク要因の 1 つであるにもかかわらず、包括的がん対策計画には盛り込まれていないことが多い。過度なアルコール摂取を予防するエビデンスに基づいた政策を推進することは、集団の癌発生リスクを低下させるためにも有用であると考えられる。		